

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101843	
法人名	有限会社 てるてるぼうず	
事業所名	グループホーム てるてるぼうず	
所在地	青森市高田字川瀬334-5	
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の場が多く、ホームの行事にもボランティアとして参加していただき、支えてもらっている。 ・入居者様個々の「思い」を大切にし、その思いに寄り添うケアを全スタッフが心がけている。 ・入居者様が一日を楽しく過ごせるようレクリエーションに力を入れている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成25年11月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>消防団や小学校・児童館・婦人会・獅子踊り保存会等、地域からたくさんの協力が得られており、日頃から、職員が地域とのつながりを大切にしている姿勢が伺われる。 地域を巻き込んだ行事を多く開催している他、ホーム内に工夫を凝らした季節感のある装飾をする等、利用者が社会性を保ち、張りのある生活ができるよう、職員同士が連携し、業務に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は内容をきちんと理解している。 毎週月曜日の朝礼時、当日に出勤している全職員で理念を唱和している。	経営者と職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関やホールに掲示している。週1回、朝礼で理念を唱和することにより、共有化を図り、職員は理念に込められた意味を理解し、理念に沿ったケアができるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ホーム内の行事へは、互いに声をかけ合い、実施している。 行事では町内婦人会のダンスや寸劇、伝統の獅子踊り等の訪問があり、入居者はとても楽しみにしている。	婦人会や児童館の子供達、高田獅子舞等の訪問受け入れや、盆踊り等の地域行事への参加を積極的に行い、地域との交流を図っている。ホームの納涼祭には近隣住民にも参加を呼びかけ、小学校や消防団からテントを借りたり、お手伝いをしていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	運営推進会議に参加している町内の婦人会の方や、近くの美容室等に来所した際に、認知症の方との関わり方について話している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。 ホームの行事、予定等を報告し、話題を限定せず意見交換している。自己評価・外部評価の結果を説明している。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員等に加え、消防団員にも参加していただいている。ホームから利用者の状況・行事等の報告を行い、出席者からは毎回、積極的な意見や助言をいただき、業務改善に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市等からの連絡には素早く対応している。 また、ホームからの情報も、いち早く伝えるようにしている。	日頃から、市や地域包括支援センターとの連携を心がけ、自己評価・外部評価の結果を提出すると共に、広報誌も配布している。また、制度に関する疑問点や困難事例についての相談等、その都度、連絡を取り、助言・指導を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容等を全職員が理解している。 皆で過ごす時間を多く持つよう心がけている。 居室の開閉等、音には素早く反応し、対応するよう全職員が心がけている。	職員は「身体拘束は行わない」という姿勢で業務に取り組み、年1回は勉強できる機会を設けるようにしている。職員の連携で外出傾向の察知に努め、必要な時は一緒にホーム周辺を散歩する等し、無断外出時に備えて、近くの他法人施設にも協力をお願いしている。また、やむを得ず身体拘束が必要になった場合は、家族の同意を得て、理由・方法等を記録に残す体制となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて学ぶ機会を設けている。 また、虐待防止に向け、職員の心が健康であるよう、ストレスを溜めないよう指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を通し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら、口頭で説明している。 自立支援に関する事項、それに伴うリスクに関しても、十分な説明を行い、同意を得た上で契約を結んでいただくよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。 面会時や電話連絡の際、不安や不満を聞き、要望はできる範囲で対応している。	毎月、請求書と一緒に担当職員からの手紙を同封し、家族の意見記入欄を設け、面会時等に持参していただけるよう言葉を添えている。 面会時は利用者の近況報告をしながら、意見や要望が聞けるよう働きかけ、出された意見等はカンファレンスや申し送りで話し合い、全職員が共有してケアに反映させていく体制にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が1対1で面談する時間を設けている。 月に1度、管理者ミーティングの際に話し合い、反映させている。	日々の業務の中で問題点等があれば、いつでも職員同士が話し合い、管理者に話をすることができ、定期的にホーム長と職員が1対1で話せる機会も設けている。また、利用者へ与える影響にも配慮し、できる限り異動は行わないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与は、人事考課を取り入れ、職員個々の評価が反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加する機会を設けている。 管理者は、職員同士が匿名で評価し合う評価表を回収し、個人面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を設け、情報交換に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に限らず、入居者の訴えに対し、傾聴するように努め、安心感を高めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、今までの生活状態や心身状態を聞き取り、問題となっている事や要望を明確にし、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズを見極め、入居者本位のサービスが受けられるように考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、食器拭き、食事準備、洗濯物たたみ等、共に行うことで、双方向の関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化等、連絡や相談を行い、協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話等を通じて、関係を継続していただいている。	利用者本人や家族の他、入居前に関わっていた地域包括支援センター等からも情報収集を行い、馴染みの関係を継続できるよう支援している。家族・友人・知人等とは自由に面会していただき、電話や年賀状のやり取り等も、希望があればお手伝いしている。また、馴染みの美容院・床屋等への外出も、利用者の希望に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングで、皆で過ごしていることが多い。 時折、入居者同士の諍いも見られるが、孤立しないよう、支え合いながら過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話相談にて対応している。 入居後、症状に改善が見られ、再契約に至った入居者もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通し、入居者の要望等を確認するように努めている。 家族からの情報を得て、その人に合った支援を心がけている。	日々のケアを通して、利用者一人ひとりの状況を注意深く観察し、必要な時は1対1でゆっくり話ができる場面を作り、思いや意向の把握に努めている。家族や友人が面会に来た際の会話からも、情報が得られるよう積極的に働きかけ、必要に応じて、入居前に関わっていた地域包括支援センター等からも情報収集している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなる家族からの情報や、以前に利用していた施設・病院からの情報等を全職員で共有し、活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活のリズムを全職員で把握できるように努め、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの聞き取り、家族の意向、全体のカンファレンスで話し合った事を反映させ、介護計画を作成している。	日々のケアを通して利用者の意見把握に努めている他、家族からは面会時や手紙・電話連絡で意見を聞き、カンファレンスで話し合いを行い、個別の介護計画作成に取り組んでいる。職員の気づきを申し送りや連絡ノートで共有し、月1回、モニタリングを行っている他、利用者の状況変化や家族の希望により、随時、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況をチェックし、カンファレンスにて職員同士で共有し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者から要望があった際には、家族から協力を得て、入居者と電話での関わりを持っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の祭や小学校の行事への参加の他、月に一度、ボランティアが訪問し、本の読み聞かせを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の往診や外来受診を活用し、突発的な受診にも対応している。入居者及び家族の要望により、他の医師による診察を希望する場合にも対応している。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、入居後の方針についても話し合っている。協力病院の往診もあるものの、希望に応じて受診介助も行い、必要時には、家族にも立ち会いや個別に病院に行って説明を聞くこと等もお願いしている。また、定期受診時に変化があった時や、定期以外の受診が必要になった時は、随時、家族に連絡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診契約者は往診担当の看護師と、24時間体制で支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活の留意点等、適切な情報を提供している。 医師と相談しながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時に、ホームでできる事、できない事を説明している。 ホームでできる限りのケアをした後、病院で最期を迎えた方がいる。 また、平成25年の4月に病院での延命治療を望まず、ホームで看取りをした事例が一例ある。	「重度化や終末期における対応に関する指針」を定め、重要事項説明書の中にも明記しており、協力医療機関や24時間対応可能な訪問看護との協力体制を整え、マニュアルも準備している。また、利用者・家族の意向を踏まえた上で、医療機関や家族との連携を図りながら対応していく体制となっており、平成25年4月に看取りを行った事例がある。	終末期の対応や方針については、家族と確認した内容を同意書等として記録に残すことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を取得した職員により、内部研修を通して共有し合っている。 町内の消防団の方の協力を得て、最新の技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 運営会議を通し、地域住民から協力を得られるような関係づくりを行っている。	年2回、避難訓練を実施しており、今年度は運営推進会議の時に夜間想定で行い、メンバーから評価・意見をいただいている。地域の消防団に災害時の協力をお願いすると共に、緊急時の職員連絡網を作成している。また、消防設備点検を年2回、業者委託で行い、食料・飲料水・石油ストーブ等、災害時に備えた用意も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の大先輩であると尊重し、話を傾聴し、優しい対応を心がけている。 守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮している。	個々のペースに合わせた支援を心がけ、声かけの仕方や言葉遣いにも注意を払い、職員に気になる言動があった時は、管理者が個々に別室で注意し、申し送りして他の職員にも注意を促している。また、個人情報に関する書類は、外部からの来訪者の目に触れないよう保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通し、入居者の思い、要望を聞き出せるように努めている。 食事のメニューを作成する時は、入居者に食べたいもの等を聞き、自己決定できるような場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れのスケジュールは職員が決めているが、無理に勧めず、できる事、できない事の他、精神状態にも配慮し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している入居者には、自由に着こなしをしていただき、介助が必要な入居者には天候や行事等を考慮し、支援している。 定期的に美容院を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日三食、職員が同席し、楽しみながら食事をとっている。 食事の準備や片付けは共に行っている。	栄養士の資格を持つ職員が献立を作成している。嗜好調査の他、食事ノートに毎日の食事摂取状況を記入して、全利用者がきちんと栄養摂取できるよう代替食も提供し、楽しんで食事ができるよう支援している。また、個々の能力や希望に応じ、可能な範囲で下ごしらえや食器拭き等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一人ひとりの水分量をチェックし、記入している。 栄養士による献立作りとなっている。 季節の行事食等、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。 できる事は自分で行い、できない事は介助により支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄の訴え時には、安全を考慮し、職員2名で行っている。 オムツ着用者の排泄パターンを記録している。	個々のバイタルチェック表に時間毎の排泄状況を記録し、必要に応じて、尿量も計測し、記録している。排泄パターンを把握すると共に、日々の観察から行動の特徴を把握して、事前のトイレ誘導を心がけ、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、トイレ誘導時は小声で声がけする等、利用者の自尊心に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂り入れた食事を提供し、健康に配慮している。 排便の数や状態、量、水分を記録して、職員間で共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	基本的には入浴日を決めているが、希望があれば、毎日入浴できる体制をとっている。	週2回の入浴が目安ではあるものの、希望により、毎日の入浴も可能な体制にあり、夏は家族の希望で、毎日シャワー浴にした方もいる。羞恥心やプライバシーにも配慮して、1対1の入浴介助を基本としている他、入浴の拒否が見られた場合は、時間を置いて声がけしたり、足浴や清拭にする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者の状態に合わせて、休息や臥床している。 また、本人の落ち着いた場所で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人記録等に薬剤情報カードを添付し、いつでも確認できるようにしている。 服薬内容で不明な点があれば、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳み、食器拭き等のお手伝いを入居者自ら進んで行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿えるように努めている。 また、必要に応じて、家族にも協力をしていただいている。	日々の会話等から、利用者の行きたい場所の把握に努めている。年間行事の中に月1回の外出行事を計画し、その都度、担当職員が中心となり、移動方法や移動距離等に配慮の上、外出支援を行っている。天気の良い日は利用者の希望に合わせて、数人でドライブに出かけたり、個別の希望に合わせた外出支援も行い、気分転換につながるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を持っている入居者もいる。 買い物時のお金の受け渡しは、見守り、声がけにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、スムーズに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に季節を感じられる装飾を行っている。 できる範囲で入居者に手伝っていただいている。 2ユニットが共に違う装飾であるため、入居者はお互いの装飾も楽しみにしている。	ホールにソファ、廊下にはベンチが置かれ、ホールとつながった和室もあり、利用者がそれぞれ好きなように寛げるよう、家庭的な空間づくりがなされている。各ユニット毎に工夫を凝らし、季節感のある装飾が施されており、窓からの日差しと照明により、適度な明るさが保たれている。また、テレビの音量や職員の作業音・話し声も騒がしすぎることなく、利用者は穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファに座り、談話して過ごしたり、食卓を囲んで談話する等、様々な形でコミュニケーションがとられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物品を居室に持ち込んでいただくよう、入居時から家族に働きかけており、自由に使用していただいている。	新しい環境に早く馴染んでいただくため、入居時に、使い慣れた物や馴染みの物を持ってきていただくようお願いし、入居後も必要な物があれば、その都度、家族に連絡している。持ち込みが少ない場合は、ホームの行事で撮った写真や手作りの作品を飾る等して、心地良く穏やかに暮らせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には職員の手作りの表札を掲げている。		